

## 行った主な活動

### 授粉

最初に花を摘み粗花粉を作る作業を行った。これは、摘んだ花を開葯器にかけ花粉を集める作業である。その後、梵天(ぼんてん)を使って1輪ずつ手作業で花粉をつけていった。品種ごとの花の咲き方を見ながら、適切なタイミングで行った。

※開葯器(かいはくき)

植物の雄しべの先端にある「葯(やく)」という花粉が入った袋を乾燥させ、開かせて(開葯)、中の花粉を取り出すための装置



### 摘果

他の果実と比べて実が大きいものや、茎が長いもの、形の良いものを残しながら摘果を行った。特に、3番目から5番目に咲いた花からできた果実を残すのが適している。一番花(最初に咲いた花からできた果実)は茎が短く折れやすいため、できるだけ残さないように意識した。



## 活動を行った感想など

2年目に入り、花粉の採取や授粉作業も昨年よりもスムーズに進められ、自分でも成長を実感できた。

摘果についても、基準や判断に対する不安感は減ってきたのでスピードにも意識を向けて進めていきたい。

## 今後の目標など

摘果作業は今後数ヶ月にわたって続くので、作業効率と品質を両立できるように、時間管理と判断力の精度を意識していく。



## 行った主な活動

### 摘果

4月から取り組んでいた1度目の摘果が5月中に完了した。気温の上昇とともに果実が大きくなり、サイズや形の判別がしやすくなったことで、作業効率も徐々に向上した。また、木によって実の付き方や生育にばらつきがあるため、それぞれの木の状態に応じて摘果の量を調整するなど、柔軟な対応を意識した。



### コンフューザーの設置

シンクイムシ（果実に潜り込んで被害を与える蛾の仲間の幼虫）対策として、交信攪乱剤「コンフューザー」を園内に設置した。コンフューザーは、害虫のオスがメスのフェロモンを見つけられないようにすることで交尾を阻害し、被害の発生を抑えることを目的としたものである。設置にあたっては、園内全体にバランスよく配置できるように、間隔を意識しながら作業を行った。



## 活動を行った感想など

黒星病※の発生が増えてきているため、葉の裏なども注意深く観察し、見つけ次第速やかに除去・処理を行っている。今後も見落としが無いよう、日々の見回りをしっかり行いたい。

摘果作業では、判断のスピードが上がってきた一方で、迷う場面では勢いで済ませそうになることもあった。特に微妙な実ほど丁寧に判断する姿勢を忘れないよう意識したい。

※黒星病とは  
カビが原因で葉や茎に  
黒い斑点が伝染する病気

## 今後の目標など

2度目以降の摘果作業は、既に不要な実の多くを落としてしまっているため、判断ミスがそのまま収穫量や売上に直結するタイミングに入ってくる。一つ一つの選択を慎重に行い、精度の高い作業を心がけたい。



## 行った主な活動

### 仕上げの摘果

梨の仕上げの摘果を行った。6月の摘果は、実の形や色、大きさ、枝との付き方などを見て、最終的に収穫する実を選ぶ大事な段階である。ただ実を落とすだけでなく、どれを残すと枝や木全体にとって負担が少なく、良い実が育つかという視点が求められ、知識と経験の両方が必要だと感じた。気温が高く、日差しも強い中での作業となったが、集中力を切らさず取り組んだ。



### ヒメボクトウ対策の薬剤散布

梨の木に発生する害虫ヒメボクトウへの対策として、薬剤散布を実施した。ヒメボクトウは、幹や枝に小さな穴を開けて中に潜り込み、内部を食い荒らす習性がある。これにより、枝が弱ったり枯れたりするだけでなく、最悪の場合は木全体がダメージを受け、来年以降の収量や品質にも影響を及ぼす。今回は、ノズルの長いスプレーを使用し、穴の奥に潜む幼虫に薬剤が届くよう慎重に噴射した。穴の数や位置を確認しながら、特に被害が集中している部分は重点的に処理した。



## 活動を行った感想など

仕上げの摘果では、見落としがちな黒星病や虫食いの跡、軸折れにつながりそうな実の位置など、気をつけるポイントが多く、判断に迷うこともあった。また、摘果の判断によって今後の生育や収穫作業のしやすさにも影響が出るため、責任の重い作業だと感じた。

ヒメボクトウの対策では、小さな穴を見逃さずに処理する集中力と根気が必要だと感じた。見た目では被害の深刻さが分かりにくいこともあり、発見が遅れると被害が広がるリスクもあるため、日頃から木全体をよく観察することの大切さを実感した。

## 今後の目標など

本格的な収穫作業が目前に迫っているため、日々の作業で疲れを溜めすぎず、安定した作業効率を保てるよう意識していきたい。また、病虫害については被害が出る前に気づける観察力を高め、木や果実へのダメージを最小限に抑えられるよう努めたい。ヒメボクトウのように、今年だけでなく来年以降にも影響する害虫への対策は特に重要なので、日常的な点検や早期発見を意識した動きを習慣づけていこうと思う。



## 行った主な活動

### 灌水

スプリンクラーとホースを運んで設置し、灌水を行った。一度に散水できる範囲が限られているため、1日おきに移動させながら作業を進めた。重さがあるので運搬や設置は大変であったが、7月は雨が少なく乾燥気味だったため、生育を保つ上で必要な作業であった。



### 梨の収穫

今年初めての収穫を行った。「早水」という茨城県のオリジナル品種を収穫した。「早水」は、「幸水」より早く収穫期を迎える赤ナシで、早生品種としては大玉でシャリ感があり糖度も高いのが特徴である。収穫は収穫用のハサミを使い、枝や葉に果実が擦れないよう注意してコンテナに入れていった。



## 活動を行った感想など

スプリンクラーについては、移動させる際に効率的な運び方を事前に考えてから作業に入ると、負担を軽減できると感じた。

収穫に関しては、果実の色づきの見極めが重要であり、収穫するものと残すものを判断する力をさらに身につける必要があると思った。

## 今後の目標など

今後は本格的な収穫や販売が始まるため、まずは体調を整えて臨みたい。また、作業を進める中で「自分が独立した立場だったらどう取り組むか」を意識しながら、一つひとつの経験を積み重ねていきたい。



## 行った主な活動

### 農産物直売所への出荷

早朝に収穫した梨を袋詰めし、朝のうちに市内の各直売所へ配送して出荷した。新鮮さを保つことを第一に考え、収穫から出荷までの流れをできるだけスムーズに進めるよう心掛けた。直売所では、他の農家の方々が出荷している野菜や果物を見る機会もあり、袋詰めの方法や陳列方法などを学ぶ良い機会になった。



### 梨の発送業務

電話での注文や直売所で直接いただいた発送注文に対応し、サイズや個数を確認しながら箱詰めを行った。一つひとつの果実の状態を見極め、傷や擦れがないかを丁寧に確認するとともに、送り先や内容を間違えないよう、伝票の記入や確認作業も慎重にした。作業を通して、消費者の方に梨が届くまでの流れを実際に経験でき、直売とはまた違った販売の形を学ぶことができた。



## 活動を行った感想など

出荷作業は早朝の短時間に多くの工程をこなす必要があり、事前の準備や段取りの重要性を改めて感じた。

梨の状態を見ながら作業する中で、自分の判断で良し悪しを見極める経験を積むことができ、今後の栽培や販売に活かせると感じた。

## 今後の目標など

9月で収穫販売の折り返しを迎えるので、引き続き体調管理や暑さ対策に気を配りながら作業を進めていきたい。

また、これからは様々な品種に触れる機会が増えるため、果実の色の付き方などを品種ごとに少しずつ異なる判断材料を注意深く観察しながら、収穫する梨とまだ収穫を待つ梨を判断できるように勉強し、その違いを理解して自分の見極め力を高めていきたい。



## 行った主な活動

### 収穫作業

8月の幸水から品種が移り変わり、豊水・恵水・あきづき・二十世紀といった梨の収穫を行った。品種によって果実の色の付き方や大きさ、触感などが異なるため、その日に収穫するのか、もう少し待つのかをそれぞれの判断基準で見極める必要があった。



### 農産物直売所への出荷

8月に引き続き、朝に収穫した梨を袋詰めし、市内の直売所へ出荷をした。品種も増えたことで、お客さんからそれぞれの味の違いについて質問される機会が多くあった。その際に自分なりに言葉を選んで説明するよう努めとことが品種ごとの特徴をどう伝えればよいか考える良い経験になった。



## 活動を行った感想など

出荷では、品種ごとの特徴をお客さんにうまく伝える難しさを実感した。まだ表現に迷うことが多く、今後は味わいや特徴を整理して伝えられるよう工夫したいと思った。

収穫作業では、色や大きさをよく観察しながら判断することの難しさを感じた。師匠の判断と自分の感覚の違いを学びながら、少しずつ見極める力を磨いていきたい。

## 今後の目標など

まだ暑い日も続くため、体調管理を怠らず、最後まで丁寧な収穫・出荷を続けていきたい。

